

混沌とした中から

混沌とした世界にどっぷり浸かって（7）

入社してFM-8を購入し、5年ぐらいいしてPC9801VX21を購入したわけですが、そのときもディスクは5インチのフロッピー2台で、ハードディスクはないというものでした。何せ、まだまだハードディスクは高かったですから。それでもいろいろと使っていたようです。その頃はアプリケーションの購入がフロッピーの時代ですから、フロッピーにコピーできないようロックがされていて、製品版のフロッピーをアプリケーションディスクとしてパソコンに挿入し、もう1台にデータディスクを挿入して使用するというものでした。そのためにその頃のパソコンには、今はあまり見かけない「Bドライブ」があったわけです。OSはこの頃すでにMS-DOS全盛ではあったのですが、各社のハードにそれぞれ対応した独自仕様のMS-DOSというわけです。この頃、NECの一人勝ち状態でした。それというのもこの独自仕様のMS-DOSにあります。せっかく友達がワープロを持っていても（もちろんこの頃の全盛は「一太郎」ですが）同じメーカーでなければ使えないわけですから、使い勝手や価格もありますが友人からの情報が入る、アプリケーションが使えるなどを考えれば同じメーカーを選択するのは致し方ないところです。それでというわけでもないのですが、コピープロテクトされたフロッピーをコピーして使うということがいろいろありました。一部は自分の方が一の保存用ということはあるのですが、ほとんどは友人同士のアプリケーションの流通、海賊版の作成でした。正直いろいろなものを使ったような気がしますが、個人的には、CADソフトの「CANDY」を買ったり（家で使うわけでもない会社購入かもしれません）、ワープロソフト、仮名漢字変換ソフト（ワープロにはもちろんついていたのですが、AIソフトの「VJE」をだいぶ使っていました。

しかし、自宅に2台のパソコンを置くというわけにもいかず、2代目のPC9801を購入したところでFM-8は会社へそのまま持ち込み、BASICでプログラムをつくり始めていました。いろいろなプログラムを作りましたが、最後にその頃開発した特殊変圧器の設計をパソコンで自動でできるものを作り、仕様を入れれば数値が出力され、後は図面に転記するだけというものだったと思います。そのほかに会社のPCを使って、その変圧器の自動試験プログラムも作りました。今は使われているかわかりませんが、測定器を接続するインターフェースとしてGP-IBというのがありました。主に測定器用の、機器を順々に芋づる式に接続するインターフェースで、発信機と受信機を接続して一通りの測定を自動化したものでした。この後実は転職するわけですが、FM-8のフルセットはそのまま会社に残してきました。

この間に独自仕様のパソコンではということで登場するのが「MSX」です。独自MS-DOSで一人勝ちのNECと第2位の富士通などに対抗すべく、三菱、ソニー、松下などがアスキーが中心となってマイクロソフトを巻き込んで作った標準規格で、その頃のパソコンの1つの中心であったゲーム用の規格です。その頃出たファミコンなどと同じカートリッジでプログラムを入れ替えるもので、その後MSX2やMSX-Turboなどいろいろ出ましたが中心にはなりえなかったようです。ところで、ファミコンはもちろんファミリーコンピュータですが、初期には専用のキーボードがあって、ファミリーベーシックが使えるなど他のパソコンと同様の機能があったのです。この頃パソコンといえばゲームが中心で、ワープロの一太郎、表計算のMultiplanがおもにつかわれていたアプリケーションでした。

（次回へ続く）

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 1月24日号

特集 デジタル化の落とし穴

→過去の写真、ビデオなどをパソコンに取り込んでデジタル化することが多いが、それですべてが問題ないか。本来アナログのデータはデジタル化するとどうしても画質は落ちてしまう。かといって画質を必要以上によくするとデータは大変に大きなものになってしまう。ではどうするか。例えばビデオをデジタル化すると1本のテープが1枚のDVDに入らない場合もある。最後はどの程度に落ち着くかが問題。最低原本のテープやフィルムは残しておくようにしなければならない。テープは20年もすればどうしても劣化してしまう。

○日経バイト 2月号

特集 センサーネット

→家、ビル、街、山、川、海などあやゆるところに無数のセンサーを設置し、環境や人の状態を動的かつリアルにデータを取得するのが「センサーネット」。無数のセンサーが人とコンピュータの関係をどう変えるか。あやゆるところに無数のセンサーを置くことによって、人の動き、火事や事故の発生などなどいろいろなことが把握できるが、すべてが把握できるということはいかなる社会を生み出すものか。最も重要なのは「セキュリティ」。

○日経システム構築 2月号

特集 ディザスタリカバリ

→災害の発生に対応するためのリカバリはどうあるべきか。実際の災害現場から学ぶものは。データのバックアップだけでなく、実際の理科張りの手順も含め対応する必要がある。

特集 新技術が引き起こすLANトラブル

→社内のLANにもいろいろな新技術が導入されている。無線LAN、IP電話、認証VLANなど。これら新技術に対応するためには習熟と学習が必要。